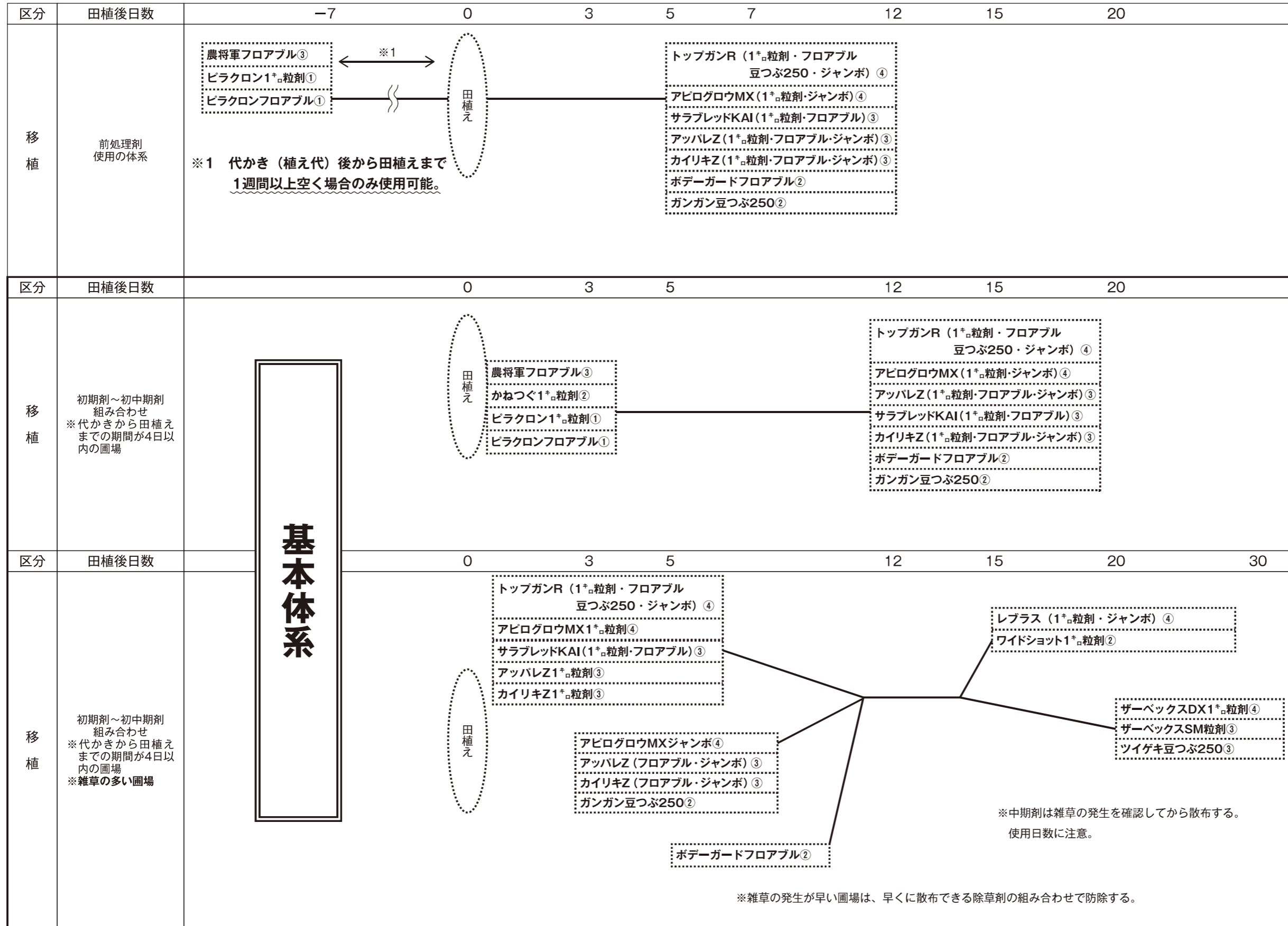


水田除草剤処理体系

〈基本方針〉安全安心な上伊那米づくりに向けて環境保全に取り組み、除草剤の使用回数・使用量を減らします。

1. ていねいな代かき、水管理により、除草剤の効果を高めましょう。
2. 体系処理を基本とし、雑草の発生が多い圃場は、初中期一発剤と中期剤の組み合わせで処理しましょう。
3. 農薬散布後は、止水管理（7日間）を徹底し、河川への流失を防ぎましょう。
4. 除草剤は水がおちついてから散布し、3～4日水を動かさないと効果が高まります。
5. 減農薬・化学肥料栽培並びに有機栽培については別途基準を定め、取り組みます。
6. 処理時期、雑草の種類、処理方法については必ず裏面でご確認ください。



移植栽培

アオミドロ・ヒルムシロ

モゲトン粒剤①
：スポット処理も有効

モゲトンジャンボ①
：薬の常発圃場で発生前に散布

ヒエ

ヒエクリーン1*₀粒剤①
ヒエクリーン豆つぶ250①
：ヒエの4葉期までに使用

クリンチャージャンボ①
：20個使用でヒエ4葉期まで
：30個使用でヒエ5葉期まで

トドメMF1*₀粒剤①
：ヒエの5葉期までに使用

トドメMF乳剤
：落水処理する（ヒエ7葉期まで）

広葉雑草

バサグラン粒剤①
バサグラン液剤①
：落水して処理する

シズイ

レプラス1*₀粒剤④
レプラスジャンボ④
ワイドショット1*₀粒剤②
：湛水処理
(効果がでるまで時間がかかる)

ヒエ・広葉雑草同時

クリンチャーバスME②
：落水処理する（ヒエ5葉期まで）

アレイルSC②
：湛水またはごく浅く湛水処理
(ヒエ5葉期まで)